

全体講評： 文系と同じく問題間の難易度の差が大きく、問2、問3を確実に解きつつ時間を削り、問1、問4でいかに得点するかが重要になる。 問1は「巴戦」と呼ばれる有名なテーマで経験値の有無が明暗を分けそう。問4は岡山大では頻出の数Ⅲの微分を利用した不等式の証明で前問の利用方法に気づけるかどうかのカギとなる。		試験時間	120分	
		難易変化	易化 / 昨年並 / 難化	
		分量変化	減少 / 昨年並 / 増加	
大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数A	確率	試験場で初見だと全てを解くのは難しい。近年、東京大でも出題があり、対策しておきたい問題である。	★★
問2	数Ⅱ	微分法・積分法	(1)は基本問題。(2)も因数分解に気づけば易問。(3)は頻出問題ではあるが計算が大変。答えがABの中点となることを知っていれば楽である。	★
問3	数B	空間ベクトル	基本的な問題で確実に得点したい。ただ、随所に計算の工夫、対称性の利用といったポイントもあるので、そのあたりの練習もしておきたい。	★
問4	数Ⅲ	微分法	各小問で前問の利用方法に気づけるかどうかで大きな差がつく。決して難しいわけではないが試験場では大変だろう。	★★
学習指針： いずれの問題も過去に類題の経験があってもおかしくないくらいの典型的な問題が並んだ。従って、良問の幅広い勉強が必要。今年は整数問題・体積が出題されなかったが、あまり過去問にばかり目を奪われずに、偏りのないよういろいろなタイプの問題演習を心掛けたい。			※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)	